



No.118 2012. 7

発行 真言宗豊山派  
北田山宝泉寺  
所沢市北岩岡130  
編集 色摩真了

# 住職交替

梅雨明け発表と同時に境内のヤマユリが咲き出し、涼しげに大きな花を揺らしています。この度、寶泉寺住職の役目を副住職に引き継ぐことになりましたので、お知らせとともにご挨拶を申し上げます。

大般若会の際に交替のご挨拶を申しあげましたが、去る6月28日を以て国や県、宗派への手続きが完了し正式に交替となりました。晋山以来34年、長い間お檀家の皆様には大変お世話になったことを深くお礼申し上げます。さらに今後も新住職を始め寶泉寺護持には格別のご厚情をお寄せいただきたくお願い申し上げます。

思いおこせば寶泉寺への晋山は昭和53年、若干30才の時でした。約150年間、住職のいなかったお寺に巡り巡った縁がありお世話になることになったのでした。住職を迎えるという決心をした、当時の兼務住職と総代をはじめ檀信徒の決意は並々ならぬものがあったに違いありません。一方の私も家族の生活を考え、今後の生活はというと大きな不安を抱えていたものの、職を辞しそれなりの決意を込めたスタートでした。しかし檀信徒や地区の皆様からあたたかく迎えていただいたことと、広がる畑や雑木林などの自然風景がよほど自分には水があっただけらしく初めの不安などはあっという間に吹き飛んでしまったのです。

まず取りかかった仕事は墓地を造成し新しい檀信徒を迎えることでした。いわば寶泉寺護持の体制強化ともいえるもので、資金は農協からの借り入れでした。完成直後から多くの新しい檀信徒を迎え、思いの外短期間に庫裏の新築が成り家族5人が移り住むことになりました。本堂と檀信徒が集う客間があり住職家族が住むという普通のお寺の姿がここで出来上がりました。しばらくして本堂が手狭になることとなり、本堂の建立をとの声も上がるようになりました。晋山以来、いつかはしなければならぬ事業と考えていたことなのでじっくりとすすめるよう

心がけたつもりです。本堂落慶は平成10年、晋山後20年目の初夏でした。

その後は旧本堂が放置状態になり、どうすべきかと役員会などで検討を重ねた結果、改修を加えて大師堂とすることとなり、併せて納骨堂や御手洗い、休憩所などを設けたものとなりました。

実は長男である真了が後継者として僧侶としての門をたたいたときから、どうしたらうまく世代交代ができるだろうかと心を巡らしていました。

特にここ数年一緒に寶泉寺の護持運営にあたってきて、僧侶としてかつ一カ寺の住職として、大筋で私と変わらない考えを持っているとの確信も得ることができました。それと大師堂の完成をもってお寺としてのいわゆるハードウェアの基本は整ったのではと考え、今が潮時と決心致しました。どうぞご理解頂けますようお願い致します。

これからも社会の公器としてソフトウェアの一層の充実を目指さなければなりません。今までよりもより積極的に二人体制を展開できればとアイデアも胸中にあたためているところです。そして徐々に新しい寶泉寺の風が吹き渡るようにと念じています。

## 住職就任のご挨拶

このたび、北田山寶泉寺の住職を拝命いたしました、色摩真了です。

平成15年に京都・種智院大学仏教学部を卒業し、翌年16年に寶泉寺副住職の任についてから8年、ようやく為すべきことがわかりかけてきたところでの大役に、「さあ、やるぞ!」という思いと、不安な気持ちがない交ぜになっているというのが正直な今の心情です。

寶泉寺は、多くのご縁によって維持されてきました。それは、住職が代替わりした今後も全く変わることはありません。

36才の私にはまだまだわからないことが沢山あります。ですから、今後もずっと皆さんと共に歩んで行けたらと思います。

どうぞ末永く、これからも寶泉寺をよろしくお願い致します。



# インド旅行略記

粕谷孝一 (86才)

もう何年も前のことになりますが、薬師寺東塔大修理御納経を兼ねたインド仏跡巡拝7日間の旅に20才の孫と共に参加して参りました。

インドの2月は日本の5月頃の陽気で乾期です。首都デリーで一泊して翌日14日東方のナーランダ大学跡地を見学しました。

ここは、7世紀中国の玄奘三蔵法師が5年間修行したところで、今では赤煉瓦の基礎のみが広大な敷地に残っていました。それから釈尊が29才で出家し35才まで苦行されたと言われるマカダ国の首都ラージギル(王舎城)の城壁、竹林精舎等を夕刻のバス車中より遠望しました。

翌15日は今回の旅の主目的である釈尊成道の地ブッダガヤへ早朝出発し、日の出遙拝、そして般若心経読経と天を突く大菩提寺の大塔参拝、ブッダ若き時の金剛宝座(釈尊映像)を参拝しました。午後からインド山日本寺にて薬師寺山田法胤貫首のよる特別写経納経法要を盛大に行いました。全国105名の参加にて荘厳にうちに本願達成の靈氣が本堂にみなぎりしました。

16日はブッダガヤより西方200kmの地、釈尊が最初に説法され、仏教教団が生まれた場所とされるサールナート(鹿野苑)へ向かいました。バスで6時間かかります。お釈迦様は歩いて6日かかったそうです。ここにも巨大ストゥーパ(仏塔)が建っています。

この大草原のインドの道は舗装も完全ではなく、土ホコリも上がり、交差点の信号機もまれにしか見かけない状態でした。道路に放し飼いの牛や犬が悠々と歩いているのを見かけます。

釈尊が2500年ほど前に王子の身でありながら家族を捨て出家し、苦行を経て、成道後45年間の説法の生涯を送られた地として、今、現にこの地に立った私は、一生のうちに一度はと思っていた事が期せずしてかない、満足と感謝の気持ちでいっぱいになりました。

平成24年4月記す

粕谷さんが寶泉寺に来られた際、世間話のおしゃべりからインド旅行の話になり、ぜひ「るり光」に原稿をとお願いしました。辛いこともあったことでしょう、興味深くお聞きしました。

## 盆供、施餓鬼お塔婆の受付

期間 7月31日(火)より8月9日(木)まで

極力この期間内にお願ひ致します。檀徒としてまだご家庭に仏さまのない方にもお納め頂いております。わざわざお持ち頂くのは年に一度ぐらいはお互いに顔を合わせたいと考えているからです。

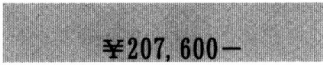

## 墓地内ゴミ処理についてお願ひ

例年のようにゴミ集積コーナーを庫裏の裏玄関付近に設けます。ゴミや墓地内の剪定枝は山林に持ち込まずに必ずこちらか墓地内のゴミかごへお持ち下さい。なお境内に軽トラックがある場合は荷台へ直接の積み込みも結構です。

お盆後の16日、送り盆の際の竹などを含む盆棚のお供物類は可燃、危険物などを分別して集積コーナーへお持ち下さい。分別、少量化にご協力をお願ひ致します。

## あしなが育英会

皆様からお預かりしました塔婆料の一部をあしなが育英会に寄付をしております。第2回目を昨年度末に送金致しました。領収書の写しをもってご報告致します。

<b>領 収 証</b>		2012年03月30日 第 158343号
〒359-0007 所沢市北岩岡 130  寶泉寺 様	 但し、遺児奨学資金として  上記正に領収させていただきました	
あしなが育英会 会 長 玉 井 義 徳		
東京都千代田区平河町1-6-8 平河町貝坂 〒102-8639 電話 03-3221-0888		

## 編 集 後 記

- ・住職交替、皆様には唐突に思われたかも知れませんが長い期間をかけて考えてきたこと。二人体制を深めたい積極的な気持ちである。早速編集者名も書き換えた。
- ・原発論議が盛ん、足尾鉍毒事件で名高い田中正造は「真の文明は山を荒らさず 川を荒らさず村を破らさず人を殺さざるべし」と名言を残している。原発

はよく「トイレのないマンション」と形容されるが人知をもって御しきれないところに踏み込んでいるのではと思う、生命倫理の分野のように。

- ・明るい話題がパンダ誕生、しかしわずか数日の命だった。我が家では二人目の孫も男の児、母乳のみですくすく育てている、パンダ赤ちゃんにも十分なお乳を飲ませたかった。 Jul. 21. 2012(琴)